



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監  
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



## 米国におけるパルボウイルスB19の流行状況

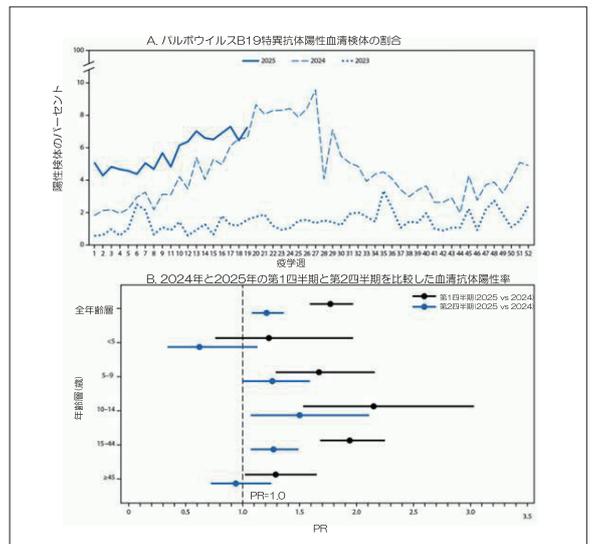
米国においても、パルボウイルスB19が流行しており、CDCが状況を報告しているので紹介する(1)。

### ■パルボウイルスB19 (B19) の概要と活動動向

- B19は、主に空気を介して伝播する呼吸器ウイルスである。感染者には症状がある場合と無症状の場合がある。
- ほとんどの感染者においては、B19感染は軽症で済む。しかし、妊婦においては胎児に有害な転帰をもたらす可能性があり、また免疫不全者や慢性溶血性血液疾患のある人においては重篤な疾患を引き起こすことがある。
- B19の活動は、通常、年間第2四半期（4月から6月）にピークを迎える傾向がある。
- COVID-19パンデミック期間中（2021年から2023年）はB19の活動が低水準であった。しかし、2024年にはパンデミック以前のレベルを上回る活動が観察された。

### ■調査の目的と方法

- CDCは、2024年から2025年にかけてB19の活動増加が継続しているかを確認するため、最近の感染マーカーである血清B19特異的免疫グロブリンM (IgM) 抗体に関するデータを分析した。
- IgM抗体は、米国食品医薬品局が認可した酵素免疫測定法 (EIA) を用いて測定された。指標値が1.1を超えると抗体検出と判断された。
- 2023年1月1日から2025年5月10日までの期間における、小児および成人からのIgM抗体陽性結果の週ごとの数と割合がまとめられた。
- 陽性率 (PR: positivity ratio) は、2025年の第1四半期および第2四半期におけるIgM抗体陽性結果の割合を、2024年の同時期における陽性結果の割合で割ることにより算出された。
- 95%信頼区間 (CI) が1.0を除外するPRは、統計的に有意とみなされた。



(A)パルボウイルスB19特異抗体\*陽性血清検体の割合[疫学週別]、および(B)2024年と2025年の第1四半期と第2四半期を比較した血清抗体陽性率† [年齢層別]—国家症候群サーベイランスプログラム¶、2023~2025年

略語: IgM = 免疫グロブリンM; PR = 陽性率(positivity ratio)

\* IgM抗体

† PRは、指定期間におけるIgM抗体陽性検査結果を、比較期間におけるIgM抗体陽性検査結果で割ったパーセントである。95%信頼区間(CI)を持つPRは、全体および年齢層別に検討され、1.0を除外する95%信頼区間(CI)は統計的に有意であると判断された。

§ 95%信頼区間(CI)はバーで示されている。

¶ 国立症候群サーベイランスプログラムは、CDC、地方および州の保健局、連邦政府、学術機関、民間部門のパートナーによる共同事業である。



## ■調査結果（図A）

### 2024年の活動動向

- 2024年のIgM抗体陽性率は、2月中旬（第7週）の3.3%から増加し、6月下旬（第27週）には9.6%のピークに達した。その後、10月下旬（第44週）には2.0%の低水準まで減少した。

### 2024年から2025年にかけての活動動向

- IgM抗体陽性率は、2024年11月中旬（第46週）の2.8%から増加し、2025年5月上旬（第19週）には7.3%に達した。
- 2025年（平均1,401件）の週ごとのIgM検査実施数は、2024年（平均1,328件）と類似していた。
- 検査が依頼された男女の割合は、15～44歳（女性93%）と45歳以上（女性66%）の年齢層を除いて、ほぼ同等であった。これらの年齢層においては女性からの検査依頼が顕著に多いことが示唆される。

### 2025年におけるIgM抗体陽性率の増加（2024年との比較）（図B）

- 2025年におけるIgM抗体陽性率は、2024年と比較して、第1四半期（PR=1.8、95%CI=1.6-2.0）および第2四半期（PR=1.2、95%CI=1.1-1.4）の両方で統計的に有意に高かった。
- 年齢層別のPRでは、5歳未満の小児を除いて、2025年第1四半期のすべての年齢層で2024年よりも有意に高かった。
- 特に、10～14歳の小児および若年者において最も高い陽性率推定値（PR=2.2、95%CI=1.5-3.0）が示された。これは、この年齢層でのB19感染が2024年と比較して2025年第1四半期に大幅に増加したことを意味する。
- 第2四半期では、10～14歳および15～44歳のPRが2024年よりも2025年で有意に高かった。特に、15～44歳の年齢層は、生殖年齢の女性を含む重要な集団である。

## ■結論

- 2025年5月10日までのIgM検査データは、特に10～14歳および15～44歳（生殖年齢の女性を含む）の間で、B19の感染が継続的に増加していることを示している。
- これらの推定値は、臨床医による検査に依存しているため、実際の感染者数よりも少ない可能性があり、特に軽症のB19感染はデータで示されているよりもはるかに広範に存在すると考えられる。これは、無症状または軽症の感染が検査されないことが多いためである。
- B19感染の早期特定は、重度の貧血の早期発見と治療を促し、妊婦における胎児の有害な転帰や、免疫不全者や慢性溶血性血液疾患のある人における重篤な疾患を軽減するのに役立つ。
- このため、医療提供者は以下のケースでB19感染の検査を検討すべきである。

- ①B19に曝露した可能性のある妊婦
- ②発熱、発疹、関節症、網状赤血球数の低い原因不明の貧血などの徴候や症状を持つ、重症化のリスクが高い人

- 妊婦をケアする医療提供者は、胎児運動の減少や胎児水腫の徴候に引き続き警戒する必要がある。これらはB19感染に関連する可能性がある症状である。
- 妊婦やB19感染による合併症のリスクが高い人は、他の人の周りでマスクを着用するなどの追加の予防戦略を検討することが推奨される。これは、B19が空気を介して伝播するため、感染リスクを減らすための重要な手段である。

### [文献]

- Hernandez-Romieu AC, et al. Parvovirus B19 Activity — United States, January 2024–May 2025  
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/74/wr/pdfs/mm7423a3-H.pdf>

株式会社メディコン  
カスタマーサービス [www.bdj.co.jp/s/cs/](http://www.bdj.co.jp/s/cs/)

[bd.com/jp/](http://bd.com/jp/)

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.  
© 2025 BD. All rights reserved.